

謹賀新年



くみあいだより
JAなんぽろ



JAなんぽろホームページアドレス <http://www.ja-nanporo.or.jp>



南幌町農業協同組合

新年のご挨拶



南幌町農業協同組合
代表理事組合長

林 裕司



新年あけましておめでとうございます。
組合員の皆様には輝かしい新春を、ご家族皆様
ご健勝で迎えられましたことと、心よりお慶び申
し上げます。

平素より農協事業に対しても、組合員をはじめ
南幌町、各関係機関よりご支援、ご協力を賜
り、心より厚くお礼申し上げます。

さて、昨年を振り返り見ると、一月末から世
界的に新型コロナウイルスが感染拡大し、未だに
ワクチン、治療薬も開発中であり、中々終息には至
らず、人々の生活や社会活動に大きな影響を与え
ています。亡くなられた皆様のご冥福をお祈り申し
上げますとともに、今もなお入院療養中の方のい
ち早い回復を願うところです。また、医療従事者
の懸命な働きに対してもお礼を申し上げます。組合
員ご家族の皆様には、今後ともに新型コロナウイ
ルスの感染には十分にご注意いただきたいと思
います。

昨年の営農にあつては、融雪期は平年より一週
間程度早く順調に進みました。4月から5月中旬

の低温強風、6月の干ばつ、8月の猛暑はありま
したが、水稻には影響なく生育も早まり、農作業
も順調に進みました。組合員の努力はもとより、
夏の高温等天候にも恵まれました。

秋小麦は、融雪期が平年より早く、起生期も早
くなりましたが、4月下旬の低温が続き、縞萎縮
病の発生も多く、収量、品質とも心配されました
が、6月以降は高温少雨が続き、病害虫の発生も
比較的に少なく、穗数、一穂粒数とも平年より多
く、ライスター・ミナルの受入実績も9,824t
と11.2%の増加、製品反収も昨年よりは0.6
俵減少しているものの、全品種合計で8.8俵と
なり、収量、品質ともに平年を上回る出来秋とな
りました。また、大豆をはじめ他畑作物、蔬菜等に
ついても一部病虫害等による被害は見受けられ
ましたが、おおむね農畜産物全般にわたり2年続
いての豊穫の秋を迎え、沢山の農産物の出荷、農
協事業の利用に対しても重ねてお礼を申し上げる
ところです。

一方、今だ終息を見ない新型コロナウイルスと
いう今まで経験したことのないウイルスが世界
的に感染拡大しており、このような状態が続け
ば、今後農業にも大きな影響が心配されるところ
です。

近年を取り巻く農業情勢については、国際貿易
交渉や規制改革、金融情勢、新型コロナウイルス
による農産物の消費減退による価格低迷の恐れ
など、農業、農業者にとつても先の見えない不安
な状況を迎えております。

J Aの自己改革を巡る情勢については、農業者の所得向上に向けて、農業協同組合、農業協同組合連合会及び農林中央金庫における事業及び組織に関する改革への実施状況等を点検し、確実な実行を促すとともに、「引き続き検討とされている事項」について検討するとしています。また、財政制度等審議会財政制度分科会歳出改革部会では、從来と同様水田活用の直接支払交付金の在り方にについて指摘がされています。それらをふまえ、中央会等各連合会が柱となり、「持続可能な北海道農業の確立に関する政策提案」と題して、中長期的に北海道全ての農家が夢と希望を持ち、安心して営農が継続できるよう環境整備すること。農業経営基盤強化準備金制度については、恒久的な制度に位置付けるとともに、人農地プラン等の地域の農業振興計画に基づいた計画的な規模拡大に対応できるよう、強制取り崩しを見直すこととしております。また、コロナ禍における状況を踏まえた北海道農畜産物の需要喚起・消費拡大対策の措置、コメの需要緩和に関し、コロナ禍による需要減少分への緊急的な対策の措置と将来的な需給改善対策の措置等、国に要請を行っているところです。

当JAにおいても、マイナス金利政策の影響と経済の回復基調が見えない中、農産物の価格は頭打ち、経営所得安定対策による交付金の依存度が年々高くなっています。また、Jターン、Iターンと若い就農者も増えてきていますが、農業者の高齢化や、農業者の減少等、組合員戸数の減少を止める所までにはいたつておりません。

そのような中、組合員にJAが果たすべき役割・責任は、一層重大なものとして受け止め、今後においても更なるつながりを強化して、JAを信頼して利用していただき、十分満足していただけますように引き続き努力し、組合員の所得安定に努め、共に持続可能な、夢のある農業の実現に向けて取り組んでいかなければならないと思っております。

令和3年度は第14次中期3ヵ年計画「Connect（コネクト）」の最終年であります。達成に向けて全役職員がこれに傾注し、将来にわたって、安心して農業が営める「地域と共に歩む力強い南幌町農業・農協の実現」に向け、今年度、新たに経営理念を作成しました。「JAなんぽろは、最幸の信頼・利用満足を実現し、組合員と地域社会に安心を届けます。」このように再定義し、役職員全員の行動規範として、組合員及び地域社会と信頼関係を深め、また、農業所得確保の強化に向けて「現状把握と環境整備による収量・収入増加」と「所得増加方策の継続」を中心に取り組み、力強い農業基盤づくりを展開しますので、組合員各位の特段のご理解と、より一層の結集、ならびに積極的な農協利用をお願い申し上げます。

南幌町は、農業が基幹産業であり、「食の安心・安全」を基本として、地域住民や消費者からの力強い信頼を確かにして、活力ある地域づくりを目指したいと思っております。

組合員の皆様には、農産物を少しでも多く出荷して頂ける事業を展開することが、「信頼される产地」としての位置づけであり、使命だとも思っています。これからも、組合員と農協が課題を共有し、農協としてのリーダーシップを發揮し、役職員一丸となって、生産者の所得確保を優先に、農協事業運営に取り組んで行く所存でございます。

結びになりますが、迎えた本年が、新型コロナウイルスも終息し、ご家族をはじめ組合員皆様が事故なく、ご健勝とご多幸豊穫の秋を共に慶びえることをご祈念申し上げ、新年のご挨拶とい

令和3年の年頭にあたり



北海道農業協同組合中央会
代表理事長

小野寺 俊幸

しかしながら、昨年は、新型コロナウイルスとの戦いが長期化し、今までの日常とは大きく変化した1年になりました。農業分野においても例外ではなく各種イベントの自粛、外食・中食の需要減少等の影響により、各作物の更なる需給緩和が懸念されているところです。今後は作物ごとの実態を踏まえた国産・道産農畜産物の需要喚起・消費拡大を図るとともに、外国人技能実習生が入国できないことにより、農作業の人材確保にも大きな影響が出ておりますので、北海道、全国連とも連携し、JAグループ北海道としてしっかりとその対応を図つてまいります。

新年あけましておめでとうござい組合員並びに役職員の皆様には、コロナ禍にあってもその苦境にも負げることと存じます。

また、地域農業の振興や地域社会の発展に向け、日頃より多大なご尽力をされていることに対しても、改めて敬意と感謝を申し上げる次第であります。

昨年の北海道農業は、米の作況指수가106の「良」、畑作物については収穫時期に一部地域に降雨による影響があり、生乳も前年の実績を超える生産となります。しかし、地域、作目によつて違いはあるますが概ね良い出来秋を迎えることが出来たと感じております。

①食料自給率に対する理解促進と行動変容の喚起

しかしながら、昨年は、新型コロナウイルスとの戦いが長期化し、今までの日常とは大きく変化した1年になりました。農業分野においても例外ではなく各種イベントの自粛、外食・中食の需要減少等の影響により、各作物の更なる需給緩和が懸念されているところです。今後は作物ごとの実態を踏まえた国産・道産農畜産物の需要喚起・消費拡大を図るとともに、外国人技能実習生が入国できないことにより、農作業の人材確保にも大きな影響が出ておりますので、北海道、全国連とも連携し、JAグループ北海道としてしっかりとその対応を図つてまいります。

J A グループ 北海道では、昨年より道民の皆様に対し北海道農業から行動を起こすことで、農業と人、農村と都市、生産者と消費者の関係のあり方を見つめなおしていただきことを目的として「AGRICACTION! HOKKAIDO(アグリアクション北海道)」と題した情報発信を北海道の支援もいただき、スタートいたしました。

「AGRICACTION! HOKKAIDO」は次の3つのテーマを伝えます。

②農業には多様な働き方があるということの周知とより多くの方が農業に携わっていただき、将来的に農業を仕事の選択肢として考えてもらうこと(本業以外に副業として農業に親しむ人々を「パラレル农家乐」)と命名)

③日頃から道産農畜産物を食している道民の皆様に感謝を伝えること

本年は第29回JA北海道大会の実践最終年であることから、この取組みと協同の力を梃子として「農業所得の増大」「多様な担い手の確保・育成」「食と農とでつながるサポートー550万人づくり」の目標達成に向けて、実践活動を強化してまいります。

結びになりますが、本年は辛丑年です。牛は古くから酪農や農業で人間を助けてくれた大切な動物でした。大変な農作業を最後まで手伝ってくれる働きぶりから、丑年は「我慢(耐え忍ぶ)」、「これから発展する前触れ」というような年になると伝えられております。

謹賀新年

代理理事組合長

林 裕司

専務理事

高島 茂和

常務理事

辻崎 徹

理事

小谷 恭司

理事

土井 雄治

理事

岩崎 正範

理事

奈良岡勝利

監事

瀬川 徹

監事

織田 章

監事

橋本 寛

監事

河村由紀男

常勤監事

小林 信昭

監事

藤本 隆幸

監事

裕光

①食料自給率に対する理解促進と行

新年の挨拶



JAなんばろ青年部
長

鈴木 善友

新年明けましておめでとうございます。昨年中は青年部活動に際し、各関係機関の方々並びに組合員の皆様にはご理解とご協力頂きましたことを厚くお礼申し上げます。また新型コロナウイルスの影響を受けた方々におかれましては今年度が良い年になることをお祈り申し上げます。

昨年は新型コロナウイルスが猛威をふるい、感染者が増え続け多くの命が奪われました。経済活動も制限され、農業においては様々な農産物の消費低迷、価格の下落もありました。そんな新型コロナウイルスに翻弄されたものの、災害に見舞われることなく生育についても全般的にやや早く推移し6月下旬の日照不足による生育の停滞や8月の強風、9月の高温・多湿などが一部作物や農作業に影響を生じましたが、生産者の適切な栽培管理などにより主要作物である水稻では作況指標として南空知106の「良」、小麦・大豆とともに平年並みかそれ以上の作柄となり、総じて良い出来秋を迎えるました。

農政においてはFTA、EPAの締結が増加し、わが国ではこれまで21ヶ国・地域と18のEPAが発行・署名済みとなつており生

産額が関税削減などの影響により価格低下し減少しています。ですが今は生産者の努力による生産コストの低減・品質の向上や経営安定対策などの国内の対策があり維持はされています。我々青年部としましては難局を迎えている時代に対応していくためにもより一層の努力を部員一同してまいります。

さて、昨年度の青年部活動を振り返りますと、総会にて新役員が承認され意気込んでいた矢先、なんばろ冬まつりをさかに新型コロナウイルスの影響が出始めました。活動が中止になつて、空知管内の青年部長同士が連絡を取り合い、各々の状況、今後の計画について情報交換をし内部で検討した結果、JAなんばろ青年部としては活動の当面休止を決断しました。6月頃まで休止し、ファームレター作成から徐々に活動を再開して基本的に少人数で会議・活動を行い感染防止に努めました。困難な状況の中、感染対策を万全にし屋外での対面販売をくるるの杜にて行い、また同場所の「畑の学校」にて消費者に食と農の大切さ、農業の魅力を伝えてまいりました。できることが限られている中でも僅かながら青年部としての役割を全うできただのかなと思います。

今年度は、一つでも多くの活動を行えることに期待し南幌町の農業を盛り上げていきたいです。そして我々青年部は「交流」から生まれる新たな可能性を原動力に食と農の生活が一変してしまいました。マスク、手洗い、うがい、三密回避、ソーシャルディスタンスなど次々に求められることが増え、新北海道スタイルが確立され、さらに日常生活に変化がありました。

そんな中でも、6月の視察研修に向け準備を進めていたところではありましたが、新型コロナウイルス第2波感染拡大の影響があり、よぎなく中止となりました。8月開催の収穫感謝祭など数々の行事も感染拡大を懸念し実施を見送りました。

新年の挨拶



JAなんばろ女性部
長

鍋山 千明

新年あけましておめでとうございます。

日頃より女性部活動に対しまして、各関係機関の方々並びに組合員の皆様には、特段のご理解とご協力を賜り厚く感謝申し上げます。

昨年は新型コロナウイルスとう誰もが未知数とも言えるウイルス感染が広がり、危機感をあまり持たないうちに北海道独自の緊急事態宣言があるなど、一瞬にして日常生活が一変してしまいました。マスク、手洗い、うがい、三密回避、ソーシャルディスタンスなど次々に求められることが増え、新北海道スタイルが確立され、さらに日常生活に変化がありました。

最後になりますが、新型コロナウイルス感染に見舞われ活動休止状態の1年となつてしましましたが、感染終息に向かうことを願いつつ、感染対策を徹底し1人でも多く参加していただける楽しい内容になるよう準備を進めていきます。

そんな中でも、6月の視察研修に向け準備を進めていたところではありましたが、新型コロナウイルス第2波感染拡大の影響があり、よぎなく中止となりました。8月開催の収穫感謝祭など数々の行事も感染拡大を懸念し実施を見送りました。

最後になりますが、本年も各関係機関、組合員の皆様方にはご指導、ご鞭撻のほど宜しく申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

長船技師による営農情報！



★丑年(うしどし)について

1 丑年(うしどし)とは

2021年は12支では第2番目に数得られる丑年(牛どし)で辛丑(かのと・うし)です。

中国の漢書によると「丑」は「紐」(ちゅう:「ひも」の意味で)、芽が種子の中からまだ伸びることができない状態を表しています。

また、指をかぎ型に曲げて糸を撚つたり編んだりする象形とされる。後に、覚えやすくするために動物の牛が割り当てられました。

丑は、植物の成長に関りがあります。それは、一度枯れて新しい芽が出かかっているが、土の上にはまだ出ていない状態です。これを言い換えると「キラキラした新たな希望が生まれるけれど、少し時間が掛かりそう……」という事かと思います。

2 作況と米価

明治22年(1889年)から平成21年(2009)年までの過去11回の丑年の水稻作況調査と米1俵価格推移を下記の表にまとめました。水稻反収では明治22年、大正2年、平成21年が低く、米の1俵価格は昭和60年をピークに低下しています。

さて本年はどうなるのか、豊穣の秋を祈願するところです。

丑年の水稻反収(kg/10a)・作況指数と販売価格の比較

西暦(丑年)	元号	反収(kg)	作況指数	1俵(60kg)価格	冷害型・その他
2021	令和3年				
2009	平成21年	475	89	14,470円	障害・遅延型冷害伴行
1997	平成9年	520	102	16,217円	
1985	昭和60年	497	103	18,668円	
1973	昭和48年	479	113	10,301円	
1961	昭和36年	426	115	4,421円	
1949	昭和24年	279		2,048円	
1937	昭和12年	272		12円70銭	
1925	大正14年	250		15円92銭	
1913	大正2年	12	6	7円28銭	遅延型冷害・大洪水発生
1901	明治34年	209		6円16銭	
1889	明治22年	71	42	2円	

注1:北海道の水稻作付面積と反収の推移・作況指数から抜粋作成

注2:米価の推移(政府買入価格 明治21年~平成8年)

注3:農産物品目別年次別平均販売価格(平成21年)、政府統計総合窓口から引用

理事会報告

12月11日

12月定例理事会で審議された主な内容について、次のとおり報告申し上げます。

【報告事項】

- 1、第7回 営農振興組合長会議の開催結果について
- 2、令和2年度 経営所得安定対策交付額の経過報告について
- 3、令和2年度 秋の経営懇談会の開催内容について
- 4、11月末 農産物保管状況について
- 5、11月末 蔬菜販売状況について
- 6、11月期 JAローンの貸付について
- 7、内部監査の実施報告について
- 8、永年勤続表彰と記念品について
- 9、令和4年度 職員採用計画について
- 10、組合員異動状況について
- 11、令和2年度 第3四半期の固定資産取得、処分について
- 12、リスク情報について
- 13、11月末 財務状況について

～表紙の紹介～

◎今 円町の表紙
は、当JA役職員
の年男・年女の6
名に表紙を飾って
いただきました。



南幌町 フォトコーナー



しいたけの収穫(育ほなみ)



暗渠作業(株アシル)

編集後記

新年あけましておめでたございます。

今年もよろしくお願いいたします。
新年早々おせちや雑煮など食べ過れてしま
いましたが、仕事が始まれば動くから大丈夫と
甘々な考えの吉田です。

くみあいだより担当の吉
田は、11月より産休から復
帰した山本係(農業振興
課)と写真を撮りました。



私達のJA

令和2年11月末日現在

組合員 2,753名
(前年同期比 ▲16名)

正組合員 455名
(前年同期比 △2名)

准組合員 2,298名
(前年同期比 ▲18名)

正組合員戸数 285戸
(前年同期比 ▲6戸)